



2016年6月1日

No. 113

.....  
「喜びながら聖書を読む会に」

JECA 永福南キリスト教会牧師 竹内 豪

私たちの教会では、いくつかの聖書研究会（以下、聖研）がある。青年会、婦人会の月1回の聖研のほか、毎週の聖研として礼拝前の成人科と水曜会がある。水曜会は牧師夫婦で参加し、昼食も用意される。午前11時に始まり、みっちり1時間半は聖書を読む。その後昼食をともにし、午後2時頃まで楽しい交わりの時を持っている。新来者が礼拝に集われるようになると、水曜会にもお誘いし、そこから信仰告白に導かれた方も多い。

水曜会はさまざまな変遷を経て、現在は聖書を読む会の手引で聖研を行っている。数年前からは、少しサイズが大きくなった改訂版で「テサロニケⅠ・Ⅱ ヨハネⅡ・Ⅲ、ユダの手紙」「旧約聖書の聖徒たち①②」「イエスに会った人たち」と読み進んで来た。改訂版の発行に伴い、主事をお招きし、模擬聖研をしていただいた。大変好評で、励まされて新たに司会をする人も起こされた。今では数名のご婦人たちが進んで司会をしてくださっている。年齢も30代から80代までさまざまだが、司会の時間配分や緊張にも共感できるようになり、とても協力的になってきた。改訂版の手引は「訳もこなれ、質問もわかりやすくなった」、「序文やまとめの内容も適切で教えられることが多い」と好評だ。

私自身、KGK主事時代から聖書を読む会の手引に30数年親しんで来た。ともに学ぶ人は、(求道中の学生や青年たちと1対1で読む「基礎の学び」は別として)学生から婦人や高齢者へと変わった。しかし、聖書が開かれ、皆で一心に読む時、そこに御霊が臨んで理解力を与えてくださる恵みは変わらない。この理解力とは、英語では **under-standing** で、下に立つこと、へりくだることだ。とりわけ、私は聖書の権威の下にへりくだることと、参加者一人一人の発言にへりくだることに、聖書を読む会の手引を用いた聖研の祝福のカギがあると思われている。

聖書を読む会は、聖書の持つ2つのすばらしい賜物を人々にもたらしてくれる。その2つとは、「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます」(Ⅱテモ 3:15)と、「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です」(同 3:16)。この賜物が豊かに活用されるために、手引とともに、手引の効用を指導し助言できる主事を諸教会で用いない理由はない。

---